

## 家族の理解と協力によって 成し遂げられた治療



(40代・女性・主婦)

私は2007年～2009年1月まで、インターフェロン治療をしていました。当初の予定は、48週治療だったのですが私の場合ウィルスが消えるのが少し遅かったので、72週に延長することに決めました。

家族の負担、金銭面でこれ以上迷惑はかけられないと思い悩み、何度も家族会議をしました。子どもたちも家事などを手伝ってくると、主人も「治せる確率があがるなら治療を続けたほうがいい。」と背中を押してくれました。

副作用に関しては、背中筋痛のような痛みが絶えず、痛み止めを服用しながら家事をこなし、だるい時は、横になり体を休めて

いました。頻尿の為夜中のトイレは、つらかったですね。必ず1回から2回起きてしまうので、睡眠不足になり昼夜逆転現象を起こしてしまいました。

週1回の通院は、体調が特に悪い時も必ずその日にいかななくてはならないので、とてもつらかったのですが、絶対に治すぞという気持ちで通院していました。

また、薬も長く服用していると、飲み忘れてしまいそうになったことが何度かあったので、カレンダーに印をつけ薬を小分けにして、目のとどく所におきパッケージは次の薬を飲むまで捨てずにとっておくことで、飲み忘れないように工夫していました。

今は月1回のウィルス検査をおこなっていますが、現在ウィルスは未検出です。長い治療ができたのは、家族の理解と協力があり出来たことだと思います。感謝しています。

一人でも多くのC型肝炎の方が治るように、心からお祈り申し上げます。

## 思い切って治療を受けたから いまの自分がある



(60代・男性・無職)

私は数年前、他の病気で入院中、血液検査で肝臓が悪いと言われ約3ヶ月間、同時に治療を始めましたが、完治はしませんでした。

退院後、肝機能の数値は一定せず不安な毎日を送っていました。平成9年頃かかりつけ医からインターフェロンの治療を勧められ1ヶ月入院治療しましたが、完治しませんでした。

平成20年5月頃から、肝機能の数値が上がり始めインターフェロンの治療ができるギリギリの状態と言われ、肝炎治療の基幹病院を紹介され再度治療開始しました。最初に2週間の入院、退院後は地元の医療機関を紹介され、その病院には月1回の

ペースで1年間通院しました。

副作用として注射後38℃以上の高熱と悪寒、網膜症による眼底出血、体上半身に強い薬疹が出て皮膚科の治療も受けました。この他に息切れ、味覚障害、手足のしびれ、脱毛、口内炎等医師からは副作用の強い方だと言われました。

強い副作用に何度か治療を中止しようかと思いましたが、現在、ウィルス陰性化になり経過観察期間に入っています。

思い切って治療を受けて良かったと思っています。

